

「禍転じて福となす」

市民の皆さんとともに未来へ着実に

新しい年を迎えるたびにいつも思います。今年も昨年よりも、おとしよりも素敵な1年であってほしいと。昨年、私たちの暮らしにコロナ禍が暗い影を落としただけになおさらです。2021年の年の始めに、今年にかける思いを小西市長に語っていただきました。聞き手は、ZTVの市広報番組「テレビはち」キャスターの片山むつみさんです。



(新春トークは、新町通りの国の重要文化財・旧西川家住宅で行われました)



片山 市民の皆さんも関心の高い市庁舎の整備について、市長の思いや進捗状況をお聞かせいただけますか。

市長 民間企業に勤めていた経験からいえば、どういうサービスを市民の皆さんに提供していただけるのか、市民生活にどのようにプラスをもたらせるかが、庁舎の基本だと思います。庁舎はコンパクトでシンプルであるべきもの。前の計画の約2分の1以下の規模を考えています。庁舎整備の進捗状況を申しますと、基本設計、つまり庁舎の重要な要素として、どのくらいの広さがあったら、どこにどのような部署を配置するか、どのような機能をもたせるかというような庁舎の一番基本となることの設計を行っている段階です。これが終わると詳細な設計と工事発注になります。現時点の設計作業は外からは見えにく

「庁舎の基本は市民生活にどのようにプラスをもたらせるか」

片山 市民の皆さんも関心の高い市庁舎の整備について、市長の思いや進捗状況をお聞かせいただけますか。

市長 民間企業に勤めていた経験からいえば、どういうサービスを市民の皆さんに提供していただけるのか、市民生活にどのようにプラスをもたらせるかが、庁舎の基本だと思います。庁舎はコンパクトでシンプルであるべきもの。前の計画の約2分の1以下の規模を考えています。庁舎整備の進捗状況を申しますと、基本設計、つまり庁舎の重要な要素として、どのくらいの広さがあったら、どこにどのような部署を配置するか、どのような機能をもたせるかというような庁舎の一番基本となることの設計を行っている段階です。これが終わると詳細な設計と工事発注になります。現時点の設計作業は外からは見えにく

工会議所の飲食店応援のクラウドファンディング「みらい飯」の取り組みの支援などを行いました。落ち込んでいたところ、手の行き届かないところ、限られた予算で効率的・効果的に施策を展開することに何より心がけました。今後も、経済情勢や市民生活の実態を見ながらさまざまな方策を考えてまいります。



新庁舎を考える若手職員のワーキンググループ



今年にかける思いを語る小西理市長

2021

新春トーク



コロナ対策は落ち込んでいるところ、にできるだけ目を配って効果的に展開

片山 新年明けましておめでとうございます。

市長 おめでとうございます、と申してもコロナ禍はまだ続いており、めでたさも中々ありません。コロナを一日も早く吹き飛ばし、新しい未来に向け歩めるように、市民の皆さんと共に手を携え頑張ってまいりますので、よろしくお願いたします。

片山 ごあいさつにもありましたように昨年は、ほぼ1年を通して世界中に新型コロナウイルスが猛威を振るいましたが、近江八幡市としてはどのように取り組まれましたか。

市長 はじめに、市民の皆さんから感染予防のための資器材などの多大なご寄付をいただいたことに厚く感謝を申し上げます。また、三密の解消など、市民の皆さん一人一人が高い意識をもち行動いただいたおかげで大きなクラスターもなく、これまでやってこられたことに心から感謝申し上げます。市としても未経験の事態であり、さまざまなことに取り組みました。いくつか例を挙げると、感染拡大の当初、市中でマスクの流通が品薄となったことから抗ウイルス性の高性能マスクを急ぎよ購入し、



武佐学区まちづくり協議会が主催した「地域の底力展 手作りマスクコンテスト」



2020年を振り返る

1月

- 近江兄弟社高校女子バレー部「春高バレー」に出場
- 新庁舎整備計画の素案を住民説明会で提示説明
- 第66回近江八幡駅伝競走大会開催、67チームがたすきつなぎ健脚競う
- 総合医療センターに新生児治療回復室（GCU）完成
- 滋賀職能大と市が災害時施設利用協定に調印

2月

- NHKのど自慢 6年ぶりに市文化会館で開催
- ふるさと納税、令和元年度の寄付額が過去最高額を更新 最終23億6737万3901円



3月

- 県広報コンクールで本市広報写真が2年連続知事賞
- 市立看護専門学校が閉校、31年の歴史に幕
- 「左義長まつり」が疫病退散の祈願込め縮小開催
- 地域おこし協力隊員を川瀬明日望さん・谷口晟士さんの2人に委嘱
- コロナ禍により市内の子ども食堂休止のなかで市協がにおにぎりプロジェクト展開



- 新庁舎の整備基本計画を発表
- 市長の名刺デザインコンテストで加藤歩夢さんに最優秀賞
- 認定こども園の開園に伴い岡山幼稚園閉園、65年の歴史に幕

- NHK朝ドラ「エール」主人公モデルの作曲家・古関裕而さん直筆の旧市歌楽譜を近江八幡図書館で展示
- 市内13か所の郵便局と市が高齢者や子どもの見守りなどで包括連携協定
- 合併10年で安土町地域自治区終了式

4月

- 健康ふれあい公園にクラブハウスがオープン
- 岡山紫雲こどもみらい園が開園
- 沖島住民の新たな命綱・消防救急艇「はるかぜ」運用開始



5月

- 全国的に新型コロナウイルス感染拡大が続く中、市民や市内事業所などからマスクなどの厚志相次ぐ
- 新型コロナ対策の特別定額給付金の給付手続きが始まる

6月

- 文芸の郷テニスコートの改修が完成しオープニングイベント開催
- 武佐コミュニティセンターで手作りマスクコンテスト



7月

- 湖国出身アーティスト西川貴教さんが来幡、小西市長と対談

ほぼ1年を通じ新型コロナウイルス感染症が国内外で猛威をふるい、東京五輪・パラリンピックをはじめとした多くのイベントが中止や延期となるなど予測もなかった2020年。近江八幡市の1年の話題を振り返ってみました。

- 地域おこし協力隊員を角田哲也さんに委嘱
- 新庁舎設計者選定へ公開プレゼンテーションを実施

8月

- 近江八幡・安土両図書館に図書消毒器を設置
- 西の湖で市民らが日本代表選手とカヌー体験

9月

- 図書館の廃棄図書などのリサイクルショップ「ゆっくぶっく」市民読書グループによりスタート
- 観光物産協会が市と連携し新型コロナ感染予防取組宣言施設を募集
- 滋賀YMCAと市が災害時帰宅困難者一時滞在施設協定に調印
- 安土学区民有志による生活支援グループ「ともに」が発足



- 市内外300点余の作品集「西の湖ヨシ灯り展」開催

10月

- 本市出身の国際的彫刻家・大黒貴之さんがかわらミュージアムで企画展
- ねっとわーく西の湖がサンセットクルーズを新設し市民（のちに県民）限定の西の湖めぐりキャンペーン
- おうみはちまんじもと応援クーポンの利用がスタート



- 岡山区まちづくり協議会が「感染症になっても安心して暮らせる学区民宣言」

- 「あづちサマーフェスティバル」を実行委員会がYouTubeで動画配信
- 旧市街地の古民家に加え彦根にも会場広げ、国際芸術祭BIWAKOビエンナーレ開催
- 市制施行10周年市政功労者表彰式・感謝状贈呈式を開催
- 官民協働で地域課題解決目指すオープンガバナンス推進協議会発足

11月

- 夫婦都市・静岡県富士宮市の「富士と琵琶湖を結ぶ会」が30回目の来幡、記念植樹
- 手作り甲冑の武者行列であづち信長まつりの一部実現
- ヨシの魅力や環境の大切さを訴えた中川真緒さん（近江兄弟社高2年）の手作り紙芝居「松明の夢」をびわ湖八幡ロータリークラブが絵本・紙芝居に製本し市内の幼稚園や小学校などに贈呈
- 本市出身の野々村鷹人さんがサッカーJ2松本山雅入団
- 桐原学区協働まちづくり協議会人権推進部会が「STOP! コロナ差別」のぼり旗を制作



12月

- 警察署の歳末特別警戒出動式に在来馬の騎馬隊登場

2021 市長新春トーク



国際芸術祭BIWAKOビエンナーレを駐日スウェーデン大使らが見学

どういう市役所のあり方がいいのか市民目線に立って考えているところ。彼らはこれから長い間、市民の皆さんと接していくわけですから本当にいいと思うものを考えてもらっています。それから庁舎と一緒に市民広場を考えております。外国でも広場がシンボリックに市民に活用されており、市民の皆さんの思いを実現できる場として市民病院跡地に企画していきたいと思っています。庁舎は令和5年度に完成する予定で、あと、1年ぐらいたすれば少しずつ形が目に見えてくると思います。頑張ってくださいとお願いいたします。

片山 昨年は大河ドラマ「麒麟がくる」が放送され安土城跡など歴史深い近江八幡にスポットが当たりました。まちの魅力のPRについてもいろいろ取り組まれたと思いますが…

「近江八幡を来訪する人々と住民が交流すること」はまちの発展にとって大事です

市長 まちづくりという道路や建物などをイメージされる人も多いと思いますが、民間だと「会社は人だ」といわれるように私は、「まちづくりは人だ」と思うのです。人というのはこの地に住む市民も当然一番大事ですが、本市に来訪し、さまざまな交流をする「交流人口」といわれる人たちが非常に大事です。市民とこの人たちの知恵や力、考え方が一体となっていくことが、まちの発展にとって最も重要だと思っています。そのためには近江八幡市はよそから来たらう人たちにとって魅力的でなければいけないと思います。そういう観点からシティプロモーションや観光を考え、取り組みを行っています。例えば、安土城跡は県を中心に築城開始450年（2026年）に向け「見える化」プロジェクトの取り組みを始めていますし、国内唯一の淡水湖の有人島・沖島は旧小学校跡地に展望台を整備しています。沖島は都会の人から見るとすごく魅力的な場所です。ほかにも我々が慣れ親しみ過ぎ、見逃している魅力的な場所がいっぱいあります。それをどのようにして見てもらうかが大事です。一例を挙げれば、昨年のBI

WAKOビエンナーレ。アートをキーワードに多くの人たちが本市を訪れ、旧市街の町屋や八幡堀、八幡山からの眺望などで本市を好きになってもらえました。このようなことをどんどん仕掛けていきたいと思っています。昨年は海外からの来訪者が来てもえなかったのは残念ですが、国外との交流も重要です。本市は外国の人から見ても非常に魅力的なまちです。日本的なたずまいや習慣が残るエキゾチックに思われるものが多く残っている。そこに交流・会話が生まれ新しいまちが出来上がっていくのではないかと思います。

片山 完成間近の事業もいくつかあるとお聞きしていますが…

市長 暮らし・子育てを重視する中、就学前の子どもたちが本にふれてもらうことはすごく大事だと思っており、移動図書館車を来年度当初に導入します。また、かねてから子どもたちを連れていける公園がないと子育て世代の皆さんに言われていたので、できることから運動公園と文芸の郷に大型遊具をまもなく設置します。桐原東小学校区に認定こども園を今春開園する予定です。着実に一歩一歩進めてまいります。

まもなく運行される移動図書館車のデザイン



運動公園などに設置が予定されている大型遊具（イメージ図）

片山 結びに市長ご自身の今年の抱負とコロナ禍が続く中での市民の皆さんへのメッセージをお願いします。

市長 コロナ禍が続く中、言葉に尽くしたい厳しさがあるとお察しします。私もいろいろな経験をお察ししていただく中、「禍（わざわい）転じて福となす」、ポジティブに物事を捉える良い機会にしたいと思っています。昨年、さまざまな事業に取り組み、私も職員も新たな気づきを得たと思っており、それをきちんとした形で生かしていければと思っています。今年1年も変わらず元気にやっていますので、市民の皆さんもできる限り笑顔で過ごしましょう。

◆今回の特集は、ZTVで1月1日（祝）9日（土）に放送の市広報番組「テシはち」の内容を基にして編集しております。